

令和3年度 第1回 加賀市健康福祉審議会 障害者分科会 資料内容についてのご意見・ご質問

下記については、分科会当日及び分科会後にいただいたご意見です。

該当箇所			質問者	ご意見・ご質問の内容	回答
NO	資料	ページ			
1			*発達障害者に対しての理解の促進する方法がないか。	安田委員 メディアなどで取り上げられ、世間で話題にはなっているであろうが、実際には対応に問題があったり誤解されることも多い。 どうしたらよいかとのことで、発達障害も高齢者の認知症キャラバンのように啓発に力をいれてもらえないかという意見がありました。 白山市は、積み木の会さんが親の会解散して今、自閉症キャラバンしていますが、いいなーと思います。	発達障がいについては、それぞれの個人の特性が幅広く、さまざまであり、誤解されることがあるため、正しい情報を啓発していく必要はあると考えております。 加賀市では、障がい者全般の啓発活動として、街頭キャンペーンや、講演会開催などを行ってきました。従来の活動の中で、新型コロナウイルス感染状況をみながら、発達障がいも含んだ啓発をして行けたらと考えております。
2			*障害者就労について	安田委員 学校から一般就労についたが、就業生活支援センターの人だけじゃ問題解決にいたらないのではないかと 思う。 コロナ禍だったこともあるのかもしれないが話を聞くだけじゃなくて就労先との仲立ちをして、解決策を出してほしい。 学校時代から見てはいるのかもしれないがそんなに関わってないから対象者の特性をつかんでないと思う。 もっと、関わるどころと連携した方がいいんじゃないかと思う。	障がい者の一般就労について、加賀市では関係団体（ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、商工会議所、基幹相談支援センター、市役所）が参加し、障害者就労支援体制検討会を定期的に行っており、障がい者雇用の促進を目的に取り組んでいます。 障がい者雇用後の企業への助言や支援なども活動の一部としてありますので、新型コロナウイルス感染状況の影響はありますが、就労先や対象者の係わりのある関係者との連携の中で、解決策につながるような支援ができないか検討してまいります。
3			*過ごせる場所	安田委員 コロナ禍で出かける場所も少なくなり家のものも、本人も辛いそうです。 そんなことで…と思われるかもしれないがKCが無くなったことで困り辛くなっているそうです。 そう言われてみれば、それに変わるようなところがなく大人、子ども、老人、障害者が過ごせるような場所があったらいいのに。 とのことでした。 例えば、KC跡地はドラッグストアになるそうですが野々市カレードとかみたいな、図書館+何かみたいなものが加賀市に有ればいいのにだそうです。カラオケの部屋は自習室とかに使えるかもしれないのに…です。 就労については問題があって支援学校から実習を受けて就職に至るんだけど、その子のアセスメントみたいなものが無いまま就職になるから、本人の能力の理解がないまま、先に進んでいく感じ。 学校に行ってる間は、先生がその都度対応するから何とかなってるけど、卒後は、その子のことがあんまりわからない人達で右往左往している。 本人の能力をよくわからないで話合いとかを進めるから、上手く物事が運ばない。	・加賀市内での過ごせる場所 加賀市内には、目的別の施設（図書館や体育館、展観施設など利用者が限定）はありますが、大人から子ども、老人、障がい者がゆっくり過ごせる施設は、あまりない状況です。 あとは、商業施設にフリースペースがあるぐらいで、ゆっくり過ごすには、適さない部分があるかと思えます。 加賀市の現施設の中で誰もがゆっくり過ごせる場所として活用できないか、関係部署に検討を依頼していきたいと思えます。 ・就労について No.2の回答と同じ

該当箇所				質問者	ご意見・ご質問の内容	回答
NO	資料	ページ	項目			
4	3	3	1 暮らしの基盤づくり (1)保健医療 3 発達がい等への支援	安田委員	<p>○子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合91.9%</p> <p>何をのパーセンテージなのでしょう？検診を受けた人数で出した数値なのでしたら、うけていても理解出来ていない親は多いと思います。現実味のある数値にするためには何らかの対策が必要かと思えます。文章ではなくわかりやすい年齢ごとの表をつくる。保育園小学校でも配布してもらおう。検診以外にも育児講座を開く。特定の方ばかりが参加するようなものではなく、子どもが5歳になった月に親にも発達についての検診講座を行う。理解度をはかることのできる内容のアンケートをとる。etc.....</p>	<p>子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合91.9%について、お答えします。</p> <p>この数値は、国の「健やか親子21（第2次）」の健康行動の指標でもあり、「加賀市健やか親子21計画（第2次後期）」においても、課題4「育てにくさを感じる親に寄り添う支援の目標指標」としてしています。</p> <p>具体的には、乳幼児健康診査（3・4か月児、1歳6か月児、3歳児）の間診票にて以下の設問をしております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（3・4か月児用）生後半年から1歳頃までの多くの子どもは、「親の後追いをする」ことを知っていますか。 ・（1歳6か月児用）1歳半から2歳頃までの多くの子どもは、「何かに興味を持った時に、指さして伝えようとする」ことを知っていますか。 ・（3歳児用）3歳から4歳頃までの多くの子どもは、「他の子どもから誘われれば遊びに加わろうとする」ことを知っていますか。 <p>数値の算出方法は、「1.はい」と回答した者の人数/全回答者数×100としています。</p> <p>国の母子保健課調査も兼ねている設問項目であり、毎年度全国でデータを集積している数値となり（全数対象）、各地方自治体は、平成27年度からデータ収集・集計し、平成28年度に実施した母子保健課調査から報告しております。</p> <p>この項目について説明をしますと、育てにくさを感じる要因は、子どもの要因や親の要因、親子を取り巻く環境要因など様々ですが、それらの状況を見極め、親が不安や困難を抱え込むことがないよう寄り添い支援していくことが重要であり、具体的には、乳幼児健診や教室・相談等において、子どもの発達過程（社会性の発達）とそれに応じた子どもとの接し方を伝え、子育ての見通しが立てられるよう支援させていただき、個別の支援につなげるというものです。</p> <p>こうした取り組みにより、子どもの社会性の発達を知っている親の割合が増えるという、数値目標として設定させていただきました。</p> <p>この度は、貴重なご意見をくださり、ありがとうございました。具体的なご提案についても、グループ内で共有し参考にさせていただきます。（健康課母子保健グループ）</p>